

誰の得点も

サッカーのJリーグが3月1日に開幕した。3連覇を目指すサンフレッチェ広島に、中央大学サッカー部FW皆川佑介選手(経4)が入団するなど、中大から4選手がプロのユニホームを着る。昨年12月16日、中大多摩キャンパスCスクエア中ホールで行われた「Jリーグ内定選手による合同記者会見」では、4選手が目を輝かせて抱負を語っていた。

DF 高瀬優孝選手
(商4)→大宮アルディージャ内定
172cm、68kg
埼玉栄高出身



FW 皆川佑介選手
(経4)→サンフレッチェ広島内定
186cm、84kg
前橋育英高出身



Jリーグでの活躍が期待される
左から高瀬、皆川、シュミット、澤田各選手

中大サッカー部からJリーグ入りするのは、昨年の5人に続く4人。会見場の席で一人ずつマイクを握った。

高瀬優孝選手(商4)

「高校(埼玉栄高)までプロになるなんて思ってもいませんでした。自分がプロになるために関わっていただきました全ての皆さまに感謝します。大宮では即戦力として活躍したいです」

2年次からトップチームでプレーしてきた。

2011年度の関東選抜A選手。

許さない



中大サッカー部Jリーグ入り4選手 内定記者会見 腕ぶすGKシュミット選手



皆川佑介選手(経4)

「3年で大きなけがをして焦りました。ほかの選手はプロのキャンプへ行くのに、僕はリハビリの毎日でした。励ましてくれたのは指導者や仲間、家族です。広島という素晴らしいチームの一員になることは、さらに自分の力を引き出せると思っています。活躍して、みんなに恩返しをしたい」

1年からトップチームに入り、3年連続で全日本大学選抜に。2013年はユニバーシアード日本代表にもなった。



ベガルタ 仙台

GK シュミット・ダニエル選手
(法4)→ベガルタ仙台下内定
196cm、90kg
東北学院高出身



ロアッソ 熊本

末

誰の得点も許さない 中大サッカー部Jリーグ入り4選手 内定記者会見

シュミット・ダニエル選手(法4)

「仙台出身の僕は子供のころから、ベガルタを応援していました。スタンドへ何度も行きました。素晴らしいチームに入れて凄くうれしいです。来シーズンのうちにレギュラーGKを追い越し、バリバリ活躍できるよう頑張ります」

1年でトップチームに入り、リーグ戦に2試合出場。4年でレギュラーを不動のものとした。

澤田崇選手(商4)

「地元熊本のチームに入ることが叶ってうれしく思います。サポーターから愛される選手になりたい。来シーズンはJ1に昇格して、けがをしない体をつくって頑張りたい。高校を出て東京に来たときは、レベルの高さを実感していました」

2年からレギュラーとなり、2011年度に関東選抜B、翌2012年度は関東選抜A。中大サッカー部・佐藤健ゼネラルマネジャー(GM)によると、この4人の中で最も有名な選手になるはずだった。けがで出遅れた感があるという。

周囲に感謝

岸真清部長(商学部教授)が会見の席でこう話した。

「4人の部員が一度にJリーグ入りするのは名誉なことです。彼らの努力はもちろんのこと、指導者、OB、ご家族の皆様にご協力いただいたおかげと思っています。サッカー場では、選手の練習ぶりを小野卓爾先生の胸像も見守っています」

小野先生の尽力により、中大サッカー部は1927(昭和2)年に創部さ



左から白須監督、選手4人、岸部長、佐藤GM

れた。グラウンドには小野先生の胸像がある。

中大サッカー部の、関東大学リーグ戦優勝回数5回は歴代6位。1961年からの2連覇が光る。優勝は1978年以降遠ざかっているが、伝統校として毎シーズン、存在感を示している。

100人近い部員がいる。白須真介監督は「4人にはJリーグ入りを果たせなかった選手の分まで頑張ってもらいたい。中大で育った思いを胸に世界へ羽ばたいてほしい」とエールを送った。

会場には、部員が大勢駆けつけ、報道カメラマンが撮影する際、被写体の選手に「笑って!」とひと声。笑顔でテレビ画面や新聞紙面に写るようチームメイトならではの配慮があった。

中央大学サッカー部 関東大学リーグ戦年度別成績

	順	試	勝	分	敗	優勝
2013	7	22	7	8	7	専修
2012	4	22	11	5	6	専修
2011	10	22	6	6	10	専修
2010	5	22	9	6	7	明治
2009	2	22	13	6	3	流経
2008	4	22	9	6	7	流経
2007	6	22	10	0	12	明治
2006	6	22	9	3	10	流経

ジーコの教え

あすのJリーガー4人へ、マスコミ各社のインタビューが始まった。

——この4年間のよかったこと、うれしかったこと、悔しかったこと、来季にかける意気込みを教えてください

大宮・高瀬選手 「自分の特徴である走力、クロスでアピールしたい。中大では2年から試合に出してもらったのに、けがをしてしまって…。リハビリ中は自分を磨くことができたが、チームには貢献できませんでした」

広島・皆川選手 「高さを生かし、相手が引いたとき貪欲なプレーをしたい」

仙台・シュミット選手 「2年生で出場した総理大臣杯決勝。自分のミスで負けたのが悔しい思い出です」

総理大臣杯全日本大学サッカートーナメントの2011年・第35回大会は、中大がこの大会初の優勝を目指し、決勝で大阪体育大学と対戦。0-1で敗れ、初優勝はならず、3度目の準優勝となった。

熊本・澤田選手 「けがが多くて
コンスタントに試合に出場できなかつた。
申し訳ないです」

——プロ初シーズンへの思いを聞
かせてください

大宮・高瀬選手 「1年目から4人
全員がピッチに出て活躍したい。僕
はGKダニエルからシュートを決めた
い」

広島・皆川選手 「サンフレッチェ
には日本を代表する佐藤寿人選手
がいます。いい選手の良いところ、盗
めるところは盗みたい。裏への抜け
だし、ボールへの嗅覚が素晴らしい
です」

仙台・シュミット選手 「ベガルタ
の練習に参加して、練習のオンとオ
フの切り替えを学びました。寡黙な選
手が多いように感じたので
(苦笑い)、自分が盛り上げる
ことができたらいいなと思いま
す。僕からシュートを奪うなん
て言っていますが、誰にも点
はあげられません」

シュミット選手は身長196cm。サッ
カーゴールのサイズは高さが2.44m。
横幅7.32m。シュミット選手がジャンプ
して、さらに手を伸ばせば、シュートの
ボールをはらうことができる。

熊本・澤田選手 「J1に上がつ
て、この3人と対戦したい」

中大応援団から選手4人、一人ひ
とりに激励コールがあった。

「フリー フレー 高瀬」

「フリー フレー 皆川」

「フリー フレー シュミット」

「フリー フレー 澤田」

身を固くして神妙に聞く4選手。佐
藤GMが代弁するかのように話した。

「ありがとうございます。いっそう頑
張る気持ちが湧いてきます」

同GMは、プロ選手となる4人に静
かに語りかけた。自身が鹿島アント



応援団がエールを送る

ラーズに在籍し、ブラジル代表の名
選手ジーコ(元日本代表監督)と知り
合ったときの痛烈な印象である。

「ジーコはサポーターが100人いた
としても時間の許す限り、笑顔で一
人ひとりに丁寧にサインをしていた。
君たちもぜひ見習って、サポーターを
大切にしてほしい」

記者会見が終わった4人はそのま
まステージに残り、会場に詰め掛けた
人たちと次々に記念撮影した。“大
記念撮影会”は大盛り上がりで、肩
を組んだり、所属するプロチームのマ
スコットを持ったりと多様なポーズをと
りながら、笑顔でサポーターの求めに
応じていた。

前年は5人がJリーグ入りした。MF
六平(むさか)光成選手(経)が清水
エスパルスへ。DF今井智基選手
(商)が大宮アルディージャへ。FW
安柄俊選手(経)が川崎フロンターレ
へ。GK岡西宏祐選手(法)がヴァン
フォーレ甲府へ。DF木下淑晶選手
(経)が徳島ヴォルティスへ。5選手の
活躍にも注目だ。

中村憲剛選手も現れた!?

憲剛選手が現れたといっても「笑顔のパンフレット」とJリーガーになる中大4選手の襟に
付けた「ピンバッジ」で登場した。

川崎フロンターレの中村選手は2003年に中大からJリーグ入り。06年に日本代表、10
年W杯南アフリカ大会に出場し、日本代表ザック・ジャパンのメンバーにも選出された名
選手だ。

中村選手が推進するのは「子供を守るカサになろう」ピンクアンブレラ運動。虐待やいじ
め、育児放棄などがない社会をつくる。

中村選手は「かけがえのない子供たちを守りたい、笑顔の続く未来へとつなげたい。そん
な夢を実現させたいと、強く思っています」として一般財団法人『チャイルドワシ』を立ち上
げた。中大サッカー部が全面的に支援している。



誰の得点も許さない

中大サッカー部Jリーグ入り4選手 内定記者会見

障がい児童とサッカー交流

Jリーグ内定の皆川佑介、シュミット・ダニエル両選手ら5人は1月13日、障がい児の放課後等デイサービス「あった介護」（さいたま市緑区）での交流イベントに参加、様々なハンディを抱える児童約60人と楽しい時間を過ごした。

中大サッカー部からは吉良龍人さん（経3）、渋谷亮さん（商3）、中村昇平さん（経3）も出席した。

皆川さんは「子供たちから元気もらいました」と笑顔で話し、シュミットさんは「かけがえのない時間を過ごすことができました」と語った。

交流イベントは白須監督の知人が同施設に勤務していることから実現。同監督は選手にサッカーのほか、学生として奉仕活動や社会貢献ができないかと考えていて、東日本大震災後ではチャリティーイベントや募金活動などを行ってきた。

サッカー部広報が見た選手の横顔

文&写真 サッカー部広報兼学生記者 高崎莉世（文学部3年）

会見前の控え室では、緊張の面持ちだった4選手。会見で発言することを一度紙に書き、それを何度も読むなどして心を落ち着かせ、大舞台に臨んだ。

DF高瀬優孝選手（商学部）

は、「自分は突出した才能があるわけではなく、プロの世界はほど遠いと思っていました。中央大学に入ってから、たくさんのチャンスをいただき、この場に立てたことをうれしく思います」と語った。



「突出した才能がない」と口にした彼であったが、確かに中学時代はユースに上がれず、高校時代はセレクションを受けた全ての大学に落ちたという過去をもつ。

「そんな自分がプロになれた理由は、中大サッカー部に入部したことが全て」と話す。怪我によって大学4

年間のうち約半分をリハビリに費やしたが、「怪我をしたことによって新たな武器を手にすることができました」我慢を知るなど精神面も強くなった高瀬選手の今後の成長に期待したい。

FW皆川佑介選手（経済学部）は、「サンフレッチェ広島という素晴らしいチームの一員になることは、自分をサッカー選手として、より成長させてくれると思います」と語った。

恵まれた体格を生かし、中大サッカー部ではもちろん、ロシアのカザンで開かれたユニバーシアードという学生の世界大会でも、日本代表として活躍した。

大学内に貼られた、代表のユニホームを着た彼の大きなポスターを目にした人も多いだろう。昨シーズンは、ベンチにいても試合に



出ている選手たちを鼓舞する姿も見られ、サッカー部には欠かせない大きな存在であった。昨年王者のサンフレッチェ広島で、彼がどんな活躍を見せてくれるのか楽しみである。

GKシュミット・ダニエル選手（法学部）は、「ベガルタ仙台は、自分が幼少期を過ごした仙台にある唯一のJリーグクラブです。子供のころ何度も応援に行っていたので、そのような特別なクラブに入団することができてとてもうれしいです」と憧れていたチームに入団できる喜びを語った。

高身長である彼は、試合で安定した対応を見せ、正確なキックは多くのサッカーファンを魅了したことだろう。試合中、相手のシュートを彼が止める度、客席は「守護神ダニエル!」と盛り上がっていたものである。



高身長である彼は、試合で安定した対応を見せ、正確なキックは多くのサッカーファンを魅了したことだろう。試合中、相手のシュートを彼が止める度、客席は「守護神ダニエル!」と盛り上がっていたものである。

「1日でも早くユアスタ(ベガルタ仙台のホームスタジアム)のピッチでプレーできるように日々努力し、先輩方から学んでレベルアップしていきたい」と力強く話した。

FW澤田崇選手(商学部)は、「自分の地元である熊本で、プロサッカー選手になれることをとてもうれしく思います。サポーターの皆さんに愛される選手になりたい」と語った。また、「自分は地方から中大サッカー部に入って、レベルの高い選手たちと一緒に切磋琢磨できたことが、成長につながったと思います」と



中大のレベルの高さを体験談で披露した。

大学屈指のドリブラーと称賛される彼には、熊本ではもちろん、日本中にその名前を轟かせてほしい。

会見後に、澤田選手が「きょうも多くの方々から、頑張っ!と声をかけていただいて、本当にありがたい

と思ったし、改めて頑張らなければと感ずることができました」と頭を下げた。

この会見によって、4選手のプロとしての自覚とやる気は、さらに増しただろう。

“中大魂”を心に秘めた彼らの新たな挑戦が始まる。



サッカー部、応援団そろってハイ、ポーズ

HAKUMON Chuo

学内配布場所一覧

中大生が作る中大生のための情報誌『HAKUMON Chuo』は、各キャンパスの以下の場所で配布しています。

ぜひ手に取って読んでみてください。

●多摩キャンパス

各学部・大学院事務室
学生部
図書館
グリーンテラス
キャリアセンター
学友会
国際センター
生協2階
入学センター
炎の塔

●市ヶ谷キャンパス

ロースクール事務室

●市ヶ谷田町キャンパス

総合インフォメーションカウンター
アカウンティングスクール事務室

●駿河台記念館

駿河台記念館事務室

●後樂園キャンパス

理工学部事務室
生協
ビジネススクール事務室

